

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社ヤマキ工場	階数	地上2階
建設地	愛知県西尾市寺津町四ノ割横道西13-3の一部、10-1の一部、41-3の一部	構造	S造
用途地域	工業地域・防火地域指定なし	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年11月 予定	評価の実施日	2025年9月5日
敷地面積	6,845 m <sup>2</sup>	作成者	奥田 章文
建築面積	3,851 m <sup>2</sup>	確認日	2025年10月27日
延床面積	7,039 m <sup>2</sup>	確認者	鈴木 英二



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

**標準計算**

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 75%
- ③上記+②以外の: 162%
- ④上記+: 162%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア= 0.0	Q2のスコア= 3.4	Q3のスコア= 2.1

**LR のスコア = 3.9**

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 4.3	LR2のスコア= 3.7	LR3のスコア= 3.6

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>5.0</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>17.6 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)株式会社ヤマキ工場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 ■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート	実施設計段階	独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部			住居・宿泊部分			全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										2.6
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>					0.43					3.4
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画			独自							
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>						0.52				3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②	ガルバリウム鋼板の耐用年数はおよそ25年から35年です。 床:CON金銀+塗床->30年、壁:ビニルクロス->20年、天井:不燃化粧PB->30年						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備			②							
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.7	0.48	-	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			階高3.9m以上。 【壁長さ比率】<0.1。		5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			② ケーブルラックを利用しているため構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。 配管内配線により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	-	0.57	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	-	-	3.9
<b>LR1 エネルギー</b>				-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			トブライトを使用している。	3.0	4.0	0.13	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEIm=0	3.0	5.0	0.63	-	-	-	5.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			② 独自	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			断熱材、大便器、給水栓、空調機器	3.0	5.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0, GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	-	4.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	-	0.30	-	-	-	3.6
1 地球温暖化への配慮			①	-	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 地域環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
2.1 大気汚染防止				-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			燃焼機器を使用していない。	-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動			独自	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	1.6	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				-	1.0	0.70	-	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>5.0</b>
LR3-1 地球温暖化への配慮	5.0	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.5</b>
Q2-2 耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3 対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2 非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1 生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:17.6%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
Q3-2 4) 地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2) 地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)株式会社ヤマキ工場

計画上の配慮事項	
総合	ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	評価対象外。
Q2 サービス性能	階高:3.9m以上。 そして、[壁長さ比率] < 0.1。 また、ケーブルラックを利用しているため構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる。
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	トップライトを使用している。 そして、BEIm=0。
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 そして、LGS使用している。 また、ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率-162%。 そして、燃焼機器を使用していない。
その他	特になし。